

「熱力学の基礎」初版第8刷より後の加筆・修正・変更点

(平成29年11月6日現在)

※ ページ数や行数は、初版第8刷のものです。第1刷～第7刷とは、最大で1ページずれていることがあります

ミスプリントなどを修正するために必要な、加筆・修正・変更点

無し

間違っているわけではないが、わかりやすく改良するための、加筆・修正・変更点

- p.16, 1.5.3 節最初の段落, 数学的定義の直前
どの偏導関数も連続であるような関数には特別な呼び名を付ける：
↓
ある領域内で関数とその偏導関数が連続か否かを示す言葉を定義する：
- p.16, 1.5.3 節, 数学的定義
ある領域で → ある開領域で
- p.16, 1.5.3 節, 数学の定理 1.1 の直前の文章
連続的微分可能だということの意味は、…次の重要な定理が物語っている
↓
連続的微分可能であるとき、そこから帰結できることのひとつは、…次の重要な定理である
- p.16, 1.5.3 節, 数学の定理 1.1 の直後の文章
つまり、連続的微分可能というのは、…という意味なのである
↓
つまり、 a の近傍で連続的微分可能であれば、…ということが言えるのである
- p.16, 1.5.3 節, 数学の定理 1.2
ある領域で → ある開領域で
- p.16, 1.5.3 節, 数学の定理 1.2 の直後の文章
ある領域で → ある開領域で
- p.307, 13.8 節のスペードマークを外す（実用的な計算がこの節の定義を用いてなされる場合が多いからです）
- p.341, 15.6.3 項の終わりの方の文章.（「これ」が何を指すのか曖昧だったので文章を変えます）
一定の潜熱を加えるか奪う必要があり、転移点で定圧比熱が発散する。これは、連続相転移にはない、一次相転移に特有な現象である¹⁵⁾。
↓
一定の潜熱を加えるか奪う必要があり¹⁵⁾、転移点で定圧比熱が発散する。このように転位点を通るのに（熱を加えてエネルギーを増すなど）示量変数を一定量変化させる必要が生ずるのは、連続相転移にはない、一次相転移に特有な現象である。

以上